

ねりま小中一貫教育レポート

〇●〇 第 27 号 〇●〇

平成 26 年 9 月

発行：教育企画課・教育指導課

「ねりま小中一貫教育レポート」は、小中一貫教育の取組を全校で共有するため、随時発行しています。第 27 号では、平成 25・26 年度小中一貫教育研究グループに指定されている「大泉中・大泉小」グループの取組について紹介します。

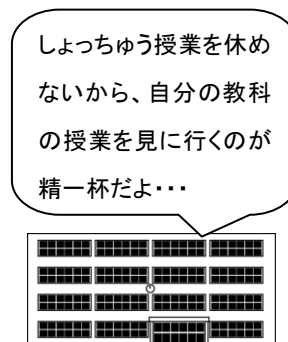
◆小中一貫教育の取組は授業の相互参観から

大泉中・大泉小グループでは「進んで学ぼうとする児童・生徒の育成」を研究主題とし、「算数・数学」「理科」「体育・保健体育」「特別支援教育」「交流分科会」の 5 分科会で研究を進めています。

小中一貫教育の研究を始めた昨年度、まず重視したのは授業の相互参観でした。しかし、小学校と中学校では、研究授業の持ち方が異なりました。中学校では、同日に複数の研究授業をやって自分の担当する教科を深めていく、と考えたのに対して、小学校は、同日に複数の研究授業があっても見られない、全教科担任の小学校教員は全教科の授業を見たいので別々の日にやってほしい、という希望でした。



小学校



中学校

話し合いの結果、中学校は同日に複数の研究授業を行い、小学校は 4 分科会がそれぞれ別の日に研究授業を行いました。小学校の研究授業には、その教科を担当する中学校の教員が時間割を調整して参加し、中学校の研究授業は、教育指導課訪問や校區別協議会にあわせて行うなど、授業時数への影響が少なくなるよう工夫しています。

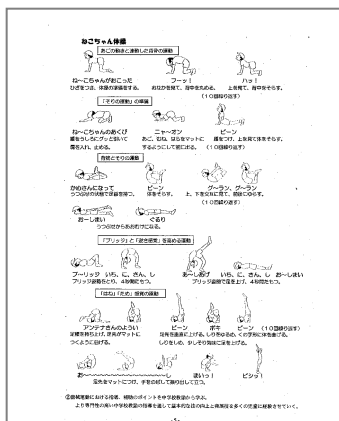
◆中学校の授業で小学校の教科書を使う <理科分科会>

中学校理科の研究授業「酸素がかかわる化学変化」では、前の時間に小学校の教科書を使って小学校での既習内容「ものの燃え方」について確認しました。また、小学校の丁寧な板書を参考にして、見やすくわかりやすい板書を工夫しました。



研究協議会では、2 時間続きで一つの実験にじっくり取り組める小学校と、50 分で実験を行う中学校で、スピードや学習量が大きく違うことを確認し、小中 9 年間を通して科学的思考力をどのように育てるかについて話し合いました (=写真⑤)。

◆「中学校入学までに身に付けさせたい力」を共有する <体育・保健体育分科会>



大泉小5年生の「マット運動」の授業に大泉中の保健体育科教員がチームティーチングで参加し、「ねこちゃん体操」(=写真⑤)の実技指導を行いました。

授業後の協議会では、自分のからだの重みを支えられない子供が増えているという課題に対して、手押し車など体幹を強化する運動を取り入れるとよい、と中学校教員から具体的な助言があり、子供たちの体力向上にむけて、活発な意見交換がありました。

◆小中教員が学習指導案を協議して指導方法の意見交換 <算数・数学分科会>

小学2年生の研究授業「ひっ算のしかたを考えよう」では、小中教員が一緒になって指導案の検討を行い、事前授業も参観しました。文章問題における演算決定や変数の教え方、検算の方法などについて、指導方法を確認しました。



研究協議会では、中学校教員から「問題文で『わかっていること』と『聞かれていること』に線を引くのはいいと思った。中学でも文章問題で何を聞かれているのかわからない子は多いので、聞かれていることを整理する力をつけていくのは有効」などの意見が出されました。

◆行事で小中交流 <特別支援分科会>

大泉小と大泉中には、どちらも知的障害学級が設置されていますが、大泉小から大泉中の知的障害学級に進学する子供は毎年0～1名と少数です。

このような状況を踏まえて、特別支援分科会では、主として行事活動の交流に取り組んでいます。昨年10月には、大泉小知的障害学級の子供たちが特別支援学級合同文化発表会の演劇練習を大泉中で見学しました(=写真⑥)。



◆生徒会役員と有志による小中合同ハイタッチ運動 <交流分科会>



大泉小では以前から、登校時に上級生がハイタッチで挨拶する「ハイタッチ運動」が行われていました。この運動に大泉中の生徒も参加して、小中合同ハイタッチ運動を行いました(=写真⑦)。校門に並んだ大泉中のお兄さん、お姉さんとハイタッチで挨拶しながら、小学生たちが元気に登校しました。